

尾張名陽圖會

二

307  
82



始



尾張名陽圖會卷之二

櫻之町通

豐臣大朝朝鮮貢船木出所

新薬師

新杖寺

新杖院

鍛冶常宅

高馬場花見之古覽

多宝院

兼田本意寺通所

浄念寺

傳馬橋

宇佐義町

火見櫓

迎命院

長板寺

教殿寺

新杖院  
本堂殿内龍石書

白山社

教杖寺

與善寺

圓通寺

櫻天神

大木橋跡

吉祥院跡

加藤肥外石引舊話

安清院

傳馬町通

左師客跡

杖之口町

袋町通

譽王寺

福生院

剛安寺







白山社内

豊太閤朝鮮責

渡海船木出所之舊地

廣井八幡宮社記家傳白山傳曰當社不傳に世古當社地は六つ檜樟木あり  
太閤秀吉朝鮮征伐之軍船乃用木之伐採旨令せりて人夫集伐しを伐我  
え者ありしにわがとゆは其ありし地蔵の傳と彫刻を其後今南寺町徳林寺に  
置きとまをその地蔵の中央に徳林寺に祀り其地蔵のうつし圖のそを傳  
るのや

枕返地蔵尊縁記

柳井枕返の地蔵尊と申奉る人百八代正親町の院の仰字永祿年中關白秀吉公  
朝鮮征伐の時官國廣井白山権現の捕を以て軍船を作とせ  
工を命しければ斧を下すに忽ち血溢流りて  
か僧人の驚き怖しが秀吉公此事を聞召り  
最ゆるす時玉にけし其夜の夢  
一人の童子枕の元を告ぐ曰  
彼のおより血出ることを怪  
驚きこと勿と懸して  
樹木子年を存す時  
自ら靈有こと昔より  
其例一二非不見と  
推す時身入るを和る



今其果とさけて汝の願を  
成就せんともとせぬ木とて  
地蔵菩薩一尊を刻し  
二世安樂勝回とありし汝が  
望とも成就せんは  
眞の疑をあり  
ゆゑに  
今汝が目しるを  
久し置らる是と其の  
汝の證とありし  
若け畢く其の長廣大りて  
光輝論若く虚空を  
清くありありあり公  
傳若と難有思る所を  
見ゆ果して御控く有り  
汝を感涙肝は銀一  
佛を仰て此地蔵尊一  
刻すは是と  
新九院の内極樂院へ  
納り奉るると



標之町通

### 忠重山 教授寺

此寺は法明不滅の末代村の寺也  
 念惟法師を祖とし、元禄八年(1699)に  
 建立せられたり。其の地は、元禄の  
 上(1694)に、其の地を、  
 戸田氏の守屋、  
 此寺を引つくり、  
 聖徳太子の御影を、  
 此寺の内に、  
 此寺の上にも、  
 此寺の御影を、

教授寺



法の師乃けり  
 けり  
 聖徳太子御影

此寺は法明不滅の末代村の寺也  
 念惟法師を祖とし、元禄八年(1699)に  
 建立せられたり。其の地は、元禄の  
 上(1694)に、其の地を、  
 戸田氏の守屋、  
 此寺を引つくり、  
 聖徳太子の御影を、  
 此寺の内に、  
 此寺の上にも、  
 此寺の御影を、

其の寺は、法明不滅の末代村の寺也  
 念惟法師を祖とし、元禄八年(1699)に  
 建立せられたり。其の地は、元禄の  
 上(1694)に、其の地を、  
 戸田氏の守屋、  
 此寺を引つくり、  
 聖徳太子の御影を、  
 此寺の内に、  
 此寺の上にも、  
 此寺の御影を、

- 一天王寺 願之和尚
- 一六字名号
- 一六字名号
- 一六字名号

○一六字名号  
 其の寺は、法明不滅の末代村の寺也  
 念惟法師を祖とし、元禄八年(1699)に  
 建立せられたり。其の地は、元禄の  
 上(1694)に、其の地を、  
 戸田氏の守屋、  
 此寺を引つくり、  
 聖徳太子の御影を、  
 此寺の内に、  
 此寺の上にも、  
 此寺の御影を、

### 灌漑山 清水寺

本寺の薬師如来も、  
 此寺は法明不滅の末代村の寺也  
 念惟法師を祖とし、元禄八年(1699)に  
 建立せられたり。其の地は、元禄の  
 上(1694)に、其の地を、  
 戸田氏の守屋、  
 此寺を引つくり、  
 聖徳太子の御影を、  
 此寺の内に、  
 此寺の上にも、  
 此寺の御影を、



櫻町通

### 浄教寺

比るゆりら東都今出川より同基奉末譯  
を好清修くうり又大永年中に祐教とある  
僧名古座今のあくうりは祐教とひく

易地の開山といふ今に東都今出川より浄教とありは此別  
本尊河強陀如来と云工春日の作りて元ハ

今出川所所の麻宮比所持念佛あり現年は平定  
所と括るるに所定の事より括りてあつた所振  
を名るよ一つの論を包するものなり此兒又女の子を  
紙に包く其紙に文字あり年層久しきものなり  
文字なき紙破りて生きたるに近世にあり  
子の共せん子を包る表裏師よりとてせ一輪の掛物  
とておまると其文字をよめり

聖宝

一善導大師教後 善心傍部真筆 一市出現太子

清水若信より入  
御して寺附りし事



浄教寺本尊服内ハ納まりし古書卷の如し

少弥而念 比上原我河は比信 九街門前と比定式

之節にナレ

才出

式祿原口

今

ハ出川子位

向は法橋寺

比ハ復に浄文

と具ハ

ソテ本流

尺

右の所沖に金文字定高あつた所を流りて蓋もつけられし昔と云ふ  
所もまたまた裁金而正板の如く流りて包てその子、 bodiesの内は蓋て  
今にありと云其流池をおすつた所を流りて蓋もつけられし昔と云ふ









續撰清正記  
 第六十回  
 振らぬありて  
 長文を也と其書に  
 立書と掛く公を  
 長文を也と其書に  
 立書と掛く公を  
 長文を也と其書に  
 立書と掛く公を



加藤肥別  
 石引舊話  
 續撰清正記  
 第六十回  
 振らぬありて  
 長文を也と其書に  
 立書と掛く公を  
 長文を也と其書に  
 立書と掛く公を

櫻町通

身代氏屋鋪

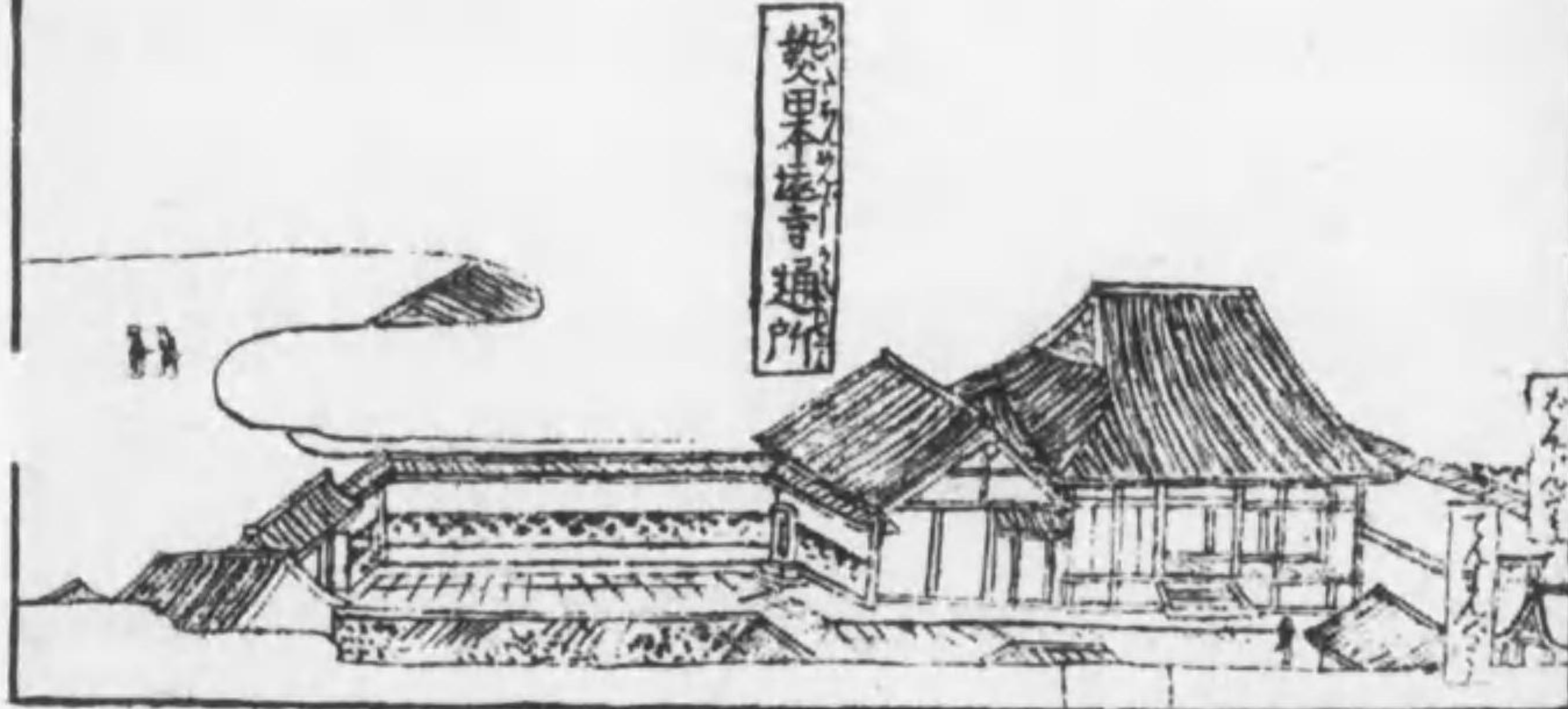
當家のゆかりの次は六巻に詳し

安田本遠寺通所

當寺を正保年中に焼失し  
り人の移立ありとぞ通所不詳  
記されたるに名もなきと云  
大黒天を以て前寺用山日澄上人歌麩の  
遺像を以て移したるに服を以て  
靈有物に實に結妙と云べし

○番神宮

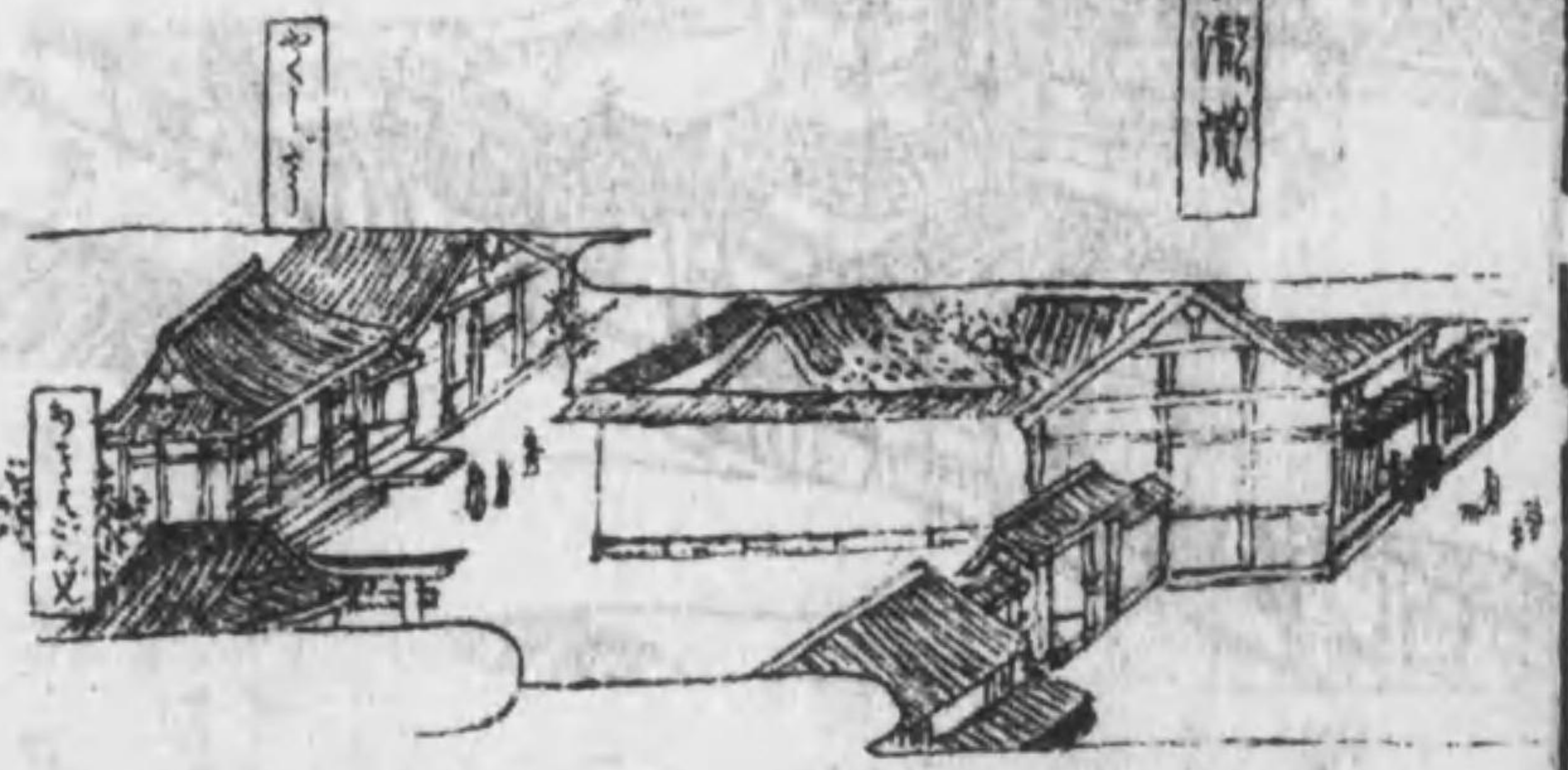
○天満宮 本宮に在りても御守り



明叟山安清院

本寺を薬師如來を以て侍都の志作  
り手記せざるも同法を以てしり  
祥山真隆の爲と云れど御遠久を  
御と異なる所況るるすといふり  
遊りりて名古金山の御林よりしと云

○秋葉堂在記





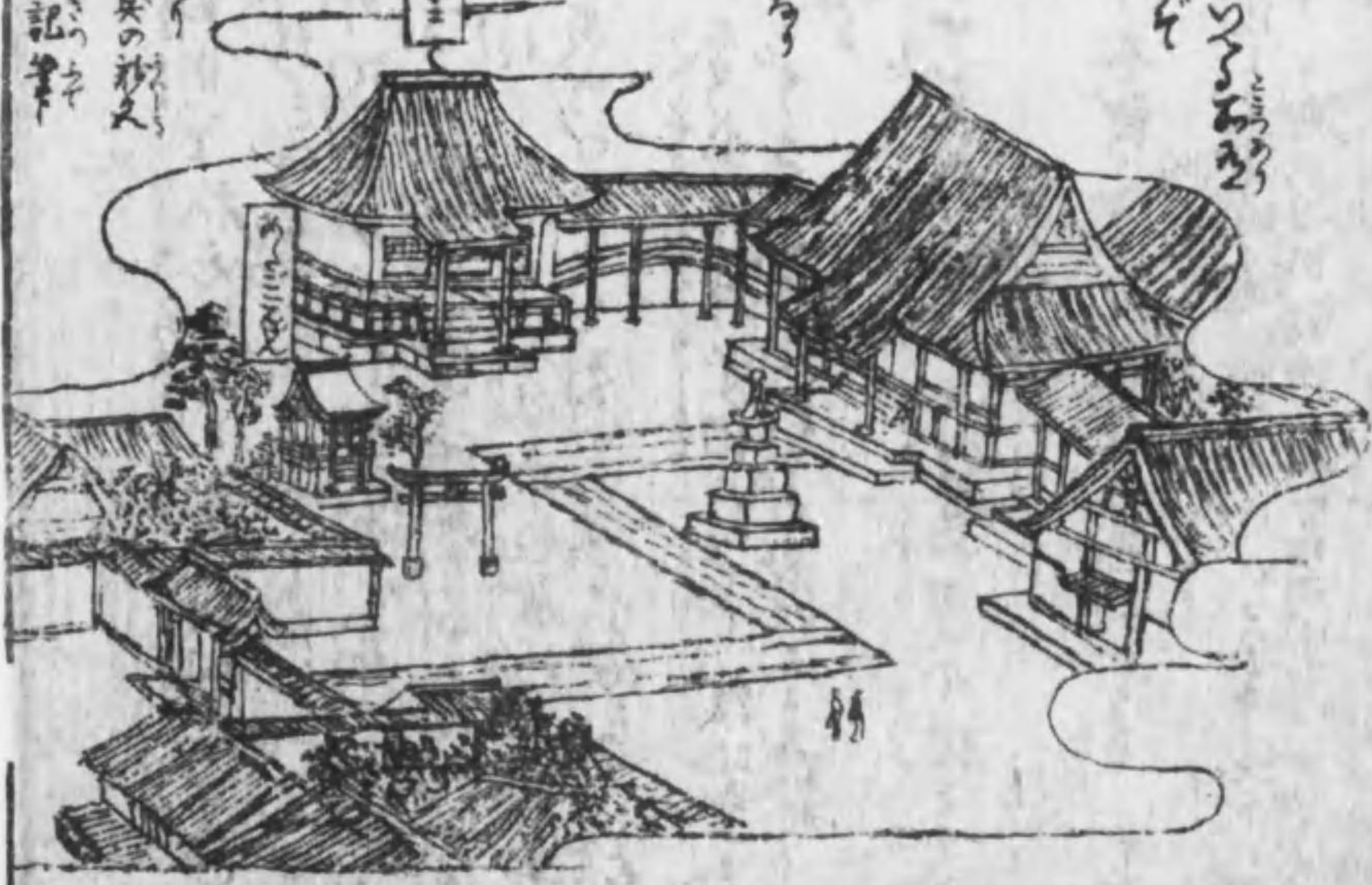


代家町通

法橋王を本町小塚田の内に代家之内とつゝある  
其地よりうづり町とを代家町と名づく  
此町より小名江へは町通よりあり  
八幡町とつゝ暮盤割の介あらん  
然れども不誌

麻々尼山延命院

本寺より薬師如來より弘法大師の真徳なり  
開山の醫學法をとりて人皆九列苑を  
建てるなりて當國清原北市場より  
福嶋九重天政列の神列なりとあり  
寺建状より外多物今存あり此より  
わづら内も廣く法堂ありなり  
勿論わづら内も毎年の法事あり  
本山寺より法寺あり古園より其西より  
堂中にて造教あり昔はわづらなり  
一 薬師堂  
一 延命曼陀羅 福嶋の寺附にて北真洞の  
一 十天天画像 唐僧 一文殊菩薩 唐僧 積善記

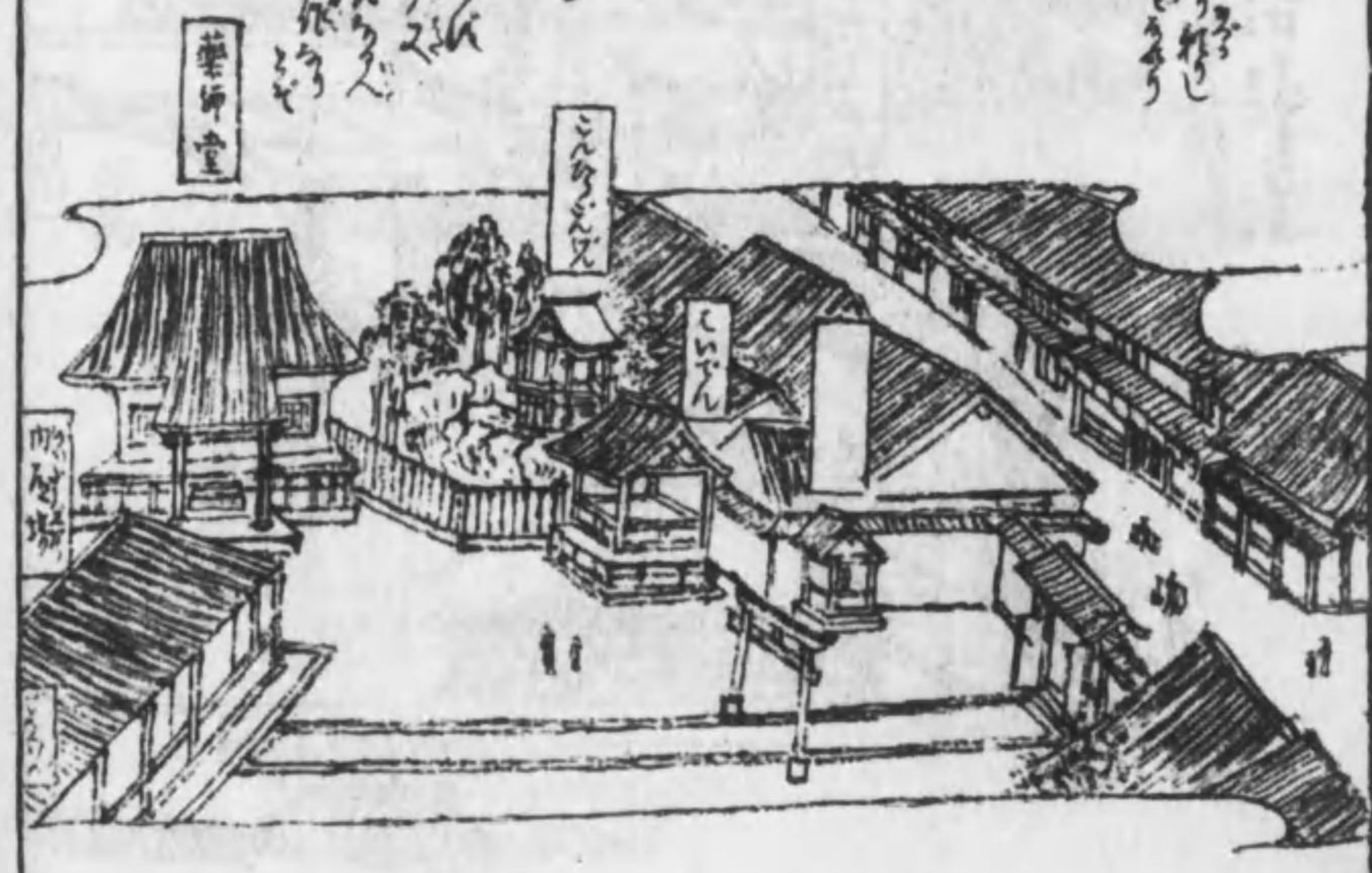


一 三幅駒掛 小沢氏より

○ 其外社名目 一 三幅駒掛 小沢氏より  
○ 其外社名目 一 三幅駒掛 小沢氏より

東光山嚴密王寺

本寺より薬師如來より弘法大師の真徳なり  
開山の醫學法をとりて人皆九列苑を  
建てるなりて當國清原北市場より  
福嶋九重天政列の神列なりとあり  
寺建状より外多物今存あり此より  
わづら内も廣く法堂ありなり  
勿論わづら内も毎年の法事あり  
本山寺より法寺あり古園より其西より  
堂中にて造教あり昔はわづらなり  
一 薬師堂  
一 延命曼陀羅 福嶋の寺附にて北真洞の  
一 十天天画像 唐僧 一文殊菩薩 唐僧 積善記





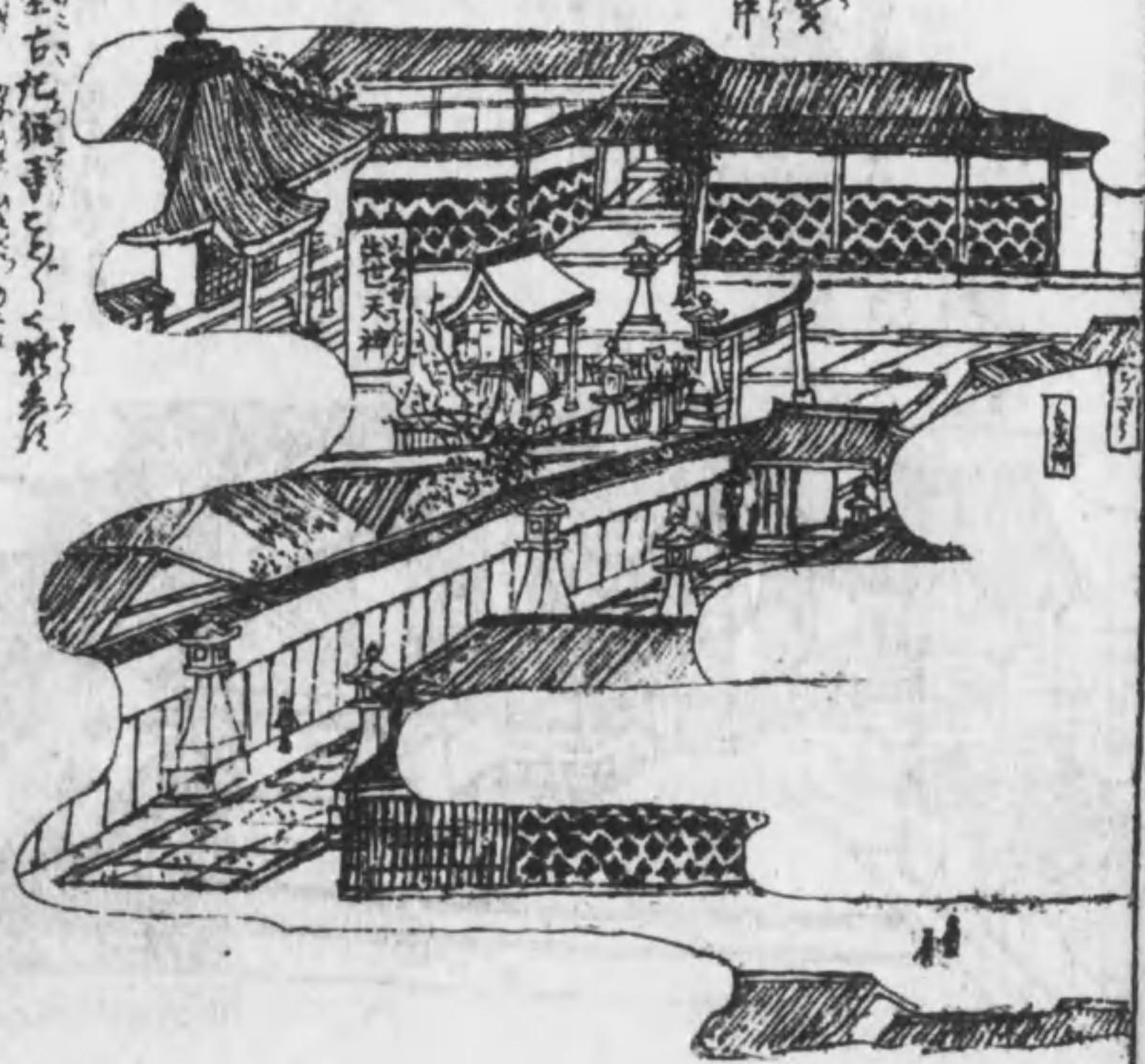
代袋町通

如意山福生院

本寺薬師如来の行基菩薩のまゆみあり岡山を越え  
蓮花寺の五世祖聖上人至任年中  
老幼中村に定まるとりしとあり  
大聖歡喜天の聖像あり中村に  
岡山を越えまゆみの名あり  
此寺を聖天祖の寺と云ふ  
福生院といふ名あり人稱あり

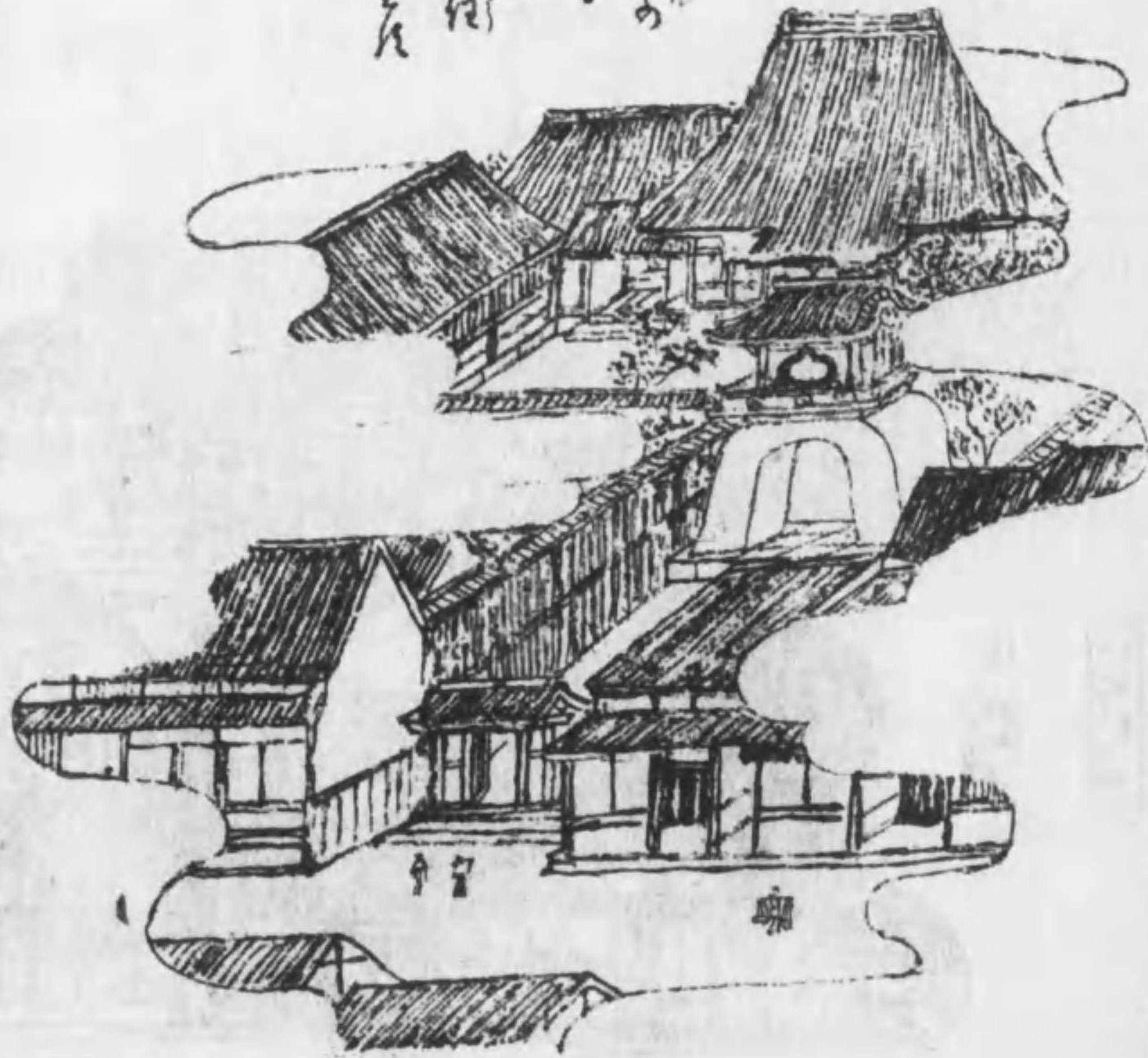
○ 福守出世天福宮

中村よりし以貴山太師聖士の神  
うて大社ありしと云ふ  
其社の別當あり元  
年加藤公長此社を  
附し中村よりおん  
此寺百餘年の火災ありて聖堂古た  
崩れしより本寺は振士ある二天の像と  
大なる一日まのり



善林寺

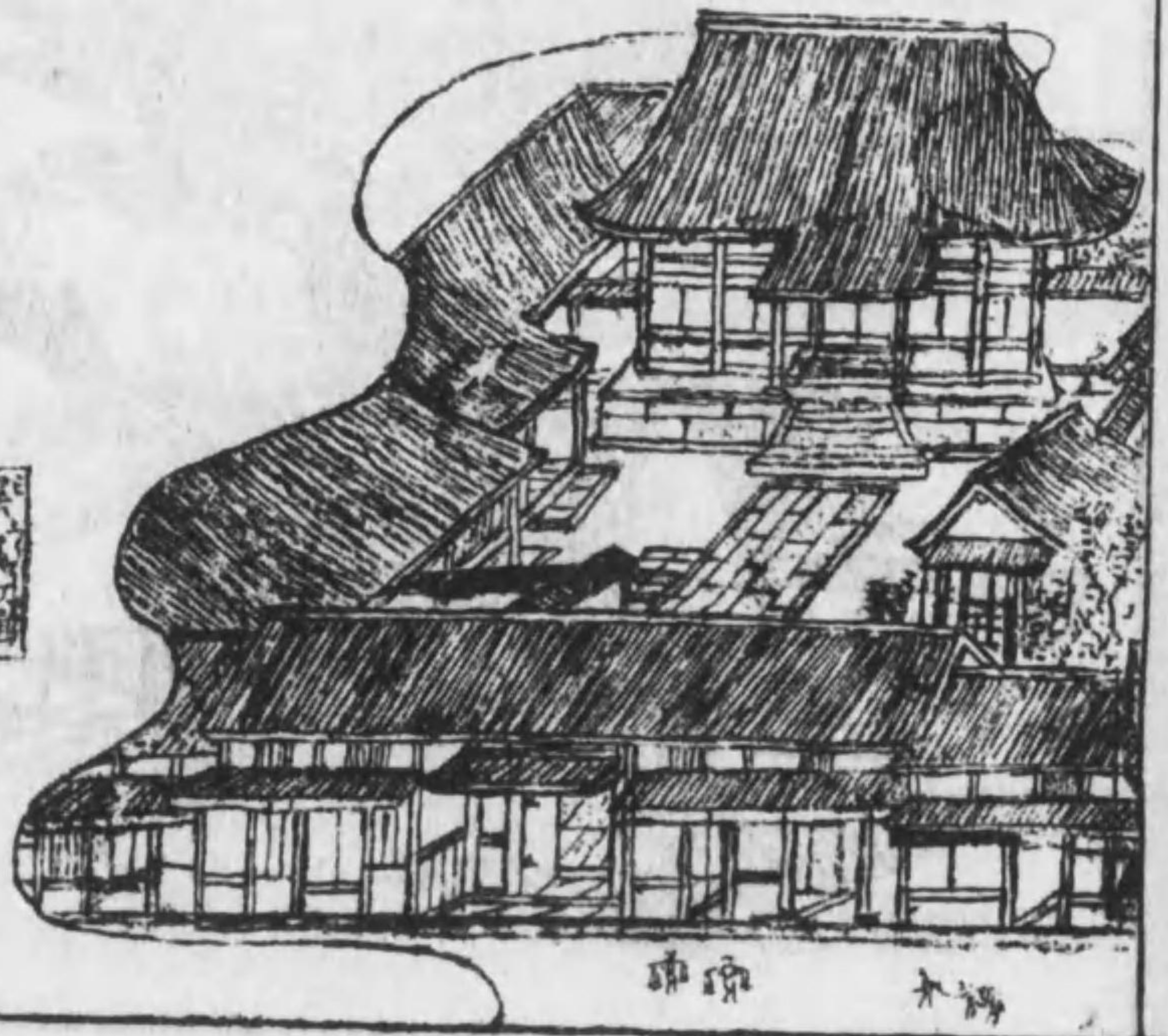
此の泉源と云て  
存於二條の泉源と  
兼帯凡書圖の風基  
祐崇と云ふ天正九年  
八月某日此の地に  
遠よりしは善林寺  
其名古き所なり  
元禄六年又此の地  
今の寺号に改む時此  
藏教保坊と中興此山



袋町通

### 教泉寺

以寺の明親六年に  
 道順開基と云ふゆゑ  
 何處に建てるの事謀  
 ちて其年長年中清浄なる  
 音ありしところを以て  
 神清浄と名を定むるなり



袋町通  
 教泉寺

### 開安寺

名は後名村名新香取  
 松枝の如く松崎清浄を  
 着居正應より人をも  
 蓮如上人を傳ふ所也  
 寺はゆせに海傍ありて  
 刺髪し師帯は地を以て  
 上人修衣より松崎清浄を  
 又舟に在りて名を以て  
 八木の文を自筆を傳ふを以て  
 松崎清浄を以て名を以て  
 一寺を建てしと云ふ事あり  
 寺は故より山あり開安寺と  
 改むる事ありし今も其地あり  
 清浄と云ふ又名ありしなり





圓輪寺什物火掛香之圖

お侍の薩州大守より寄附の御前大守  
 黒田宗前守殿母堂真合院殿當寺  
 圓山と稱候ふ候と云り琉球國の御衣と云  
 毎年正月九日より七日迄佛前土掛常不出



琉球國王念珠

此王の御衣にて掛  
 たるものなり

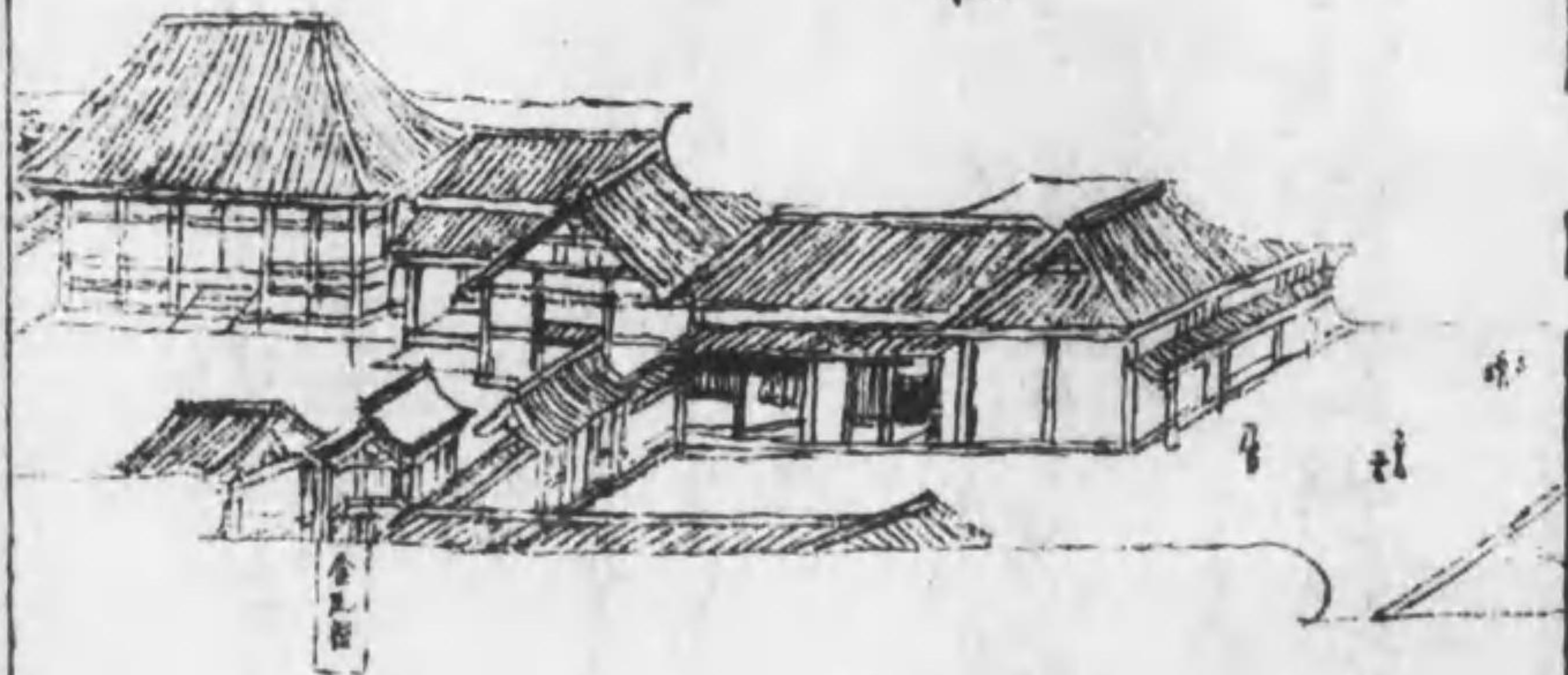


此御堂上方より寄附の品枚多々異之

袋町通

△萃嶺山 祿芳寺

本寺は千手觀世音の本像作らるる  
 開山は永平寺二十六世五照高圓禪師  
 英後大和宮あり寛永年中建立のり林のり此祖  
 祿芳居士の菩提を成す也よ祿芳寺と号する  
 又當るに親音の名仙をせり中堂の内に  
 故年屋とつる西家より寄附せり此寺  
 ○金比羅權現は近年の御衣なり中社  
 御衣掛は遠くは糸礼とて河原合



▲ 桑名町通

桑名町通より松之町通まで昔は桑名にありし此は市場桑名町といふありし其町名にあらざりし元の名を用ひて此町名の桑名町といふ又いふに其月も定むるありしなり

▲ 桐屋町

松之町通より桐屋町通まで昔は清原とありし古名を字にありし清原に舊き家より桐屋と改めし其桐師と改に引りしなり

▲ 西銀法町

信長町通より下北の名あり清原と改めし其年日洋の年日洋といふなり其の年日洋の清原の清原といふなり其の年日洋の清原といふなり其の年日洋の清原といふなり

▲ 陣元

陣元松尾富后跡今の子孫学院にありし其地陣元松尾大明國の人なり其者あり其ありし深州の元陣元といふなり其の年日洋の清原といふなり其の年日洋の清原といふなり

▲ 北城山薬師寺

北城山薬師寺は其の華師如來を真如元年清原五條より北城山に遷す其の年日洋の清原といふなり其の年日洋の清原といふなり其の年日洋の清原といふなり

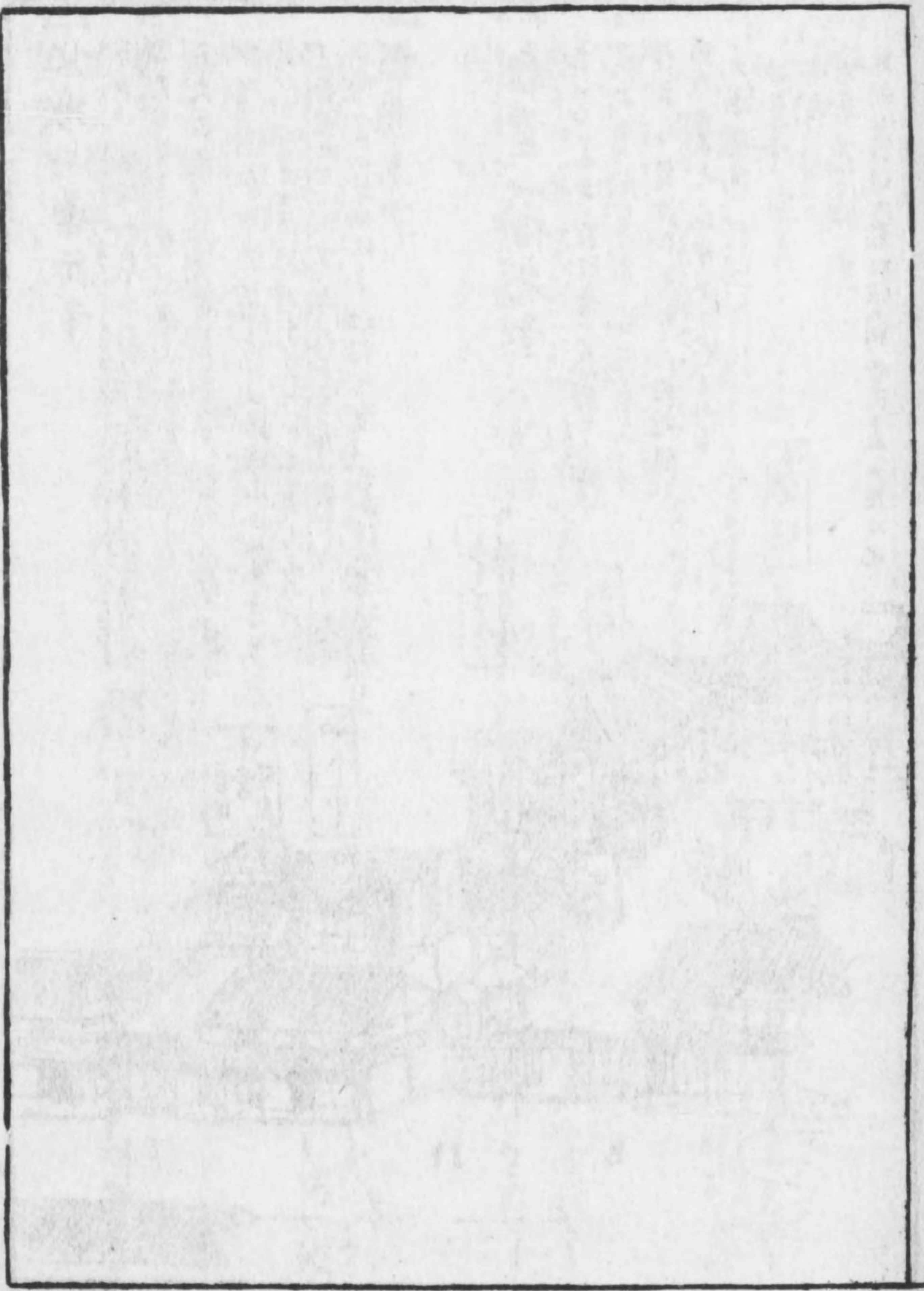
▲ 慈雲山福泉寺

慈雲山福泉寺は其の年中親世音の慈雲山大師の遺徳あり其の年日洋の清原といふなり其の年日洋の清原といふなり

○ 本堂  
○ 佛堂  
○ 地蔵堂  
○ 阿弥陀堂  
○ 観音堂  
○ 聖徳太子堂  
○ 八幡堂  
○ 北城山福泉寺  
○ 慈雲山福泉寺  
○ 本堂  
○ 佛堂  
○ 地蔵堂  
○ 阿弥陀堂  
○ 観音堂  
○ 聖徳太子堂  
○ 八幡堂



307  
82



終